2021年2月10日 2020年12月期第4四半期決算 カンファレンスコール 説明要旨



皆さまこんばんは。日本ペイントホールディングス CFO 若月です。

本日はお忙しい中、ご参集いただき、誠にありがとうございます。2020 年度通期および第 4 四半期決算、また 2021 年度の見通しの概要をご説明いたします。

なお、本日もウェブ上で音声ライブ配信を実施しています。また、日英両言語にて同時通訳を入れてのカンファレンスとしています。よろしくお願いいたします。



【1-1. 本日のサマリー(1)2020年通期

2020年通期 YoY成長率

(短信ベース) 売上収益+12.9% 営業利益+11.4%

(実質ベース) 売上収益-0.1% 営業利益-18.5% ◆短信ベースでは、2020年は各地でコロナ影響を大きく受けるも、 DuluxGroup社やBetek Boya社の通年寄与**や、3Q以降の中国を 中心とした回復により、コロナ禍にも関わらず過去最高の売上収 益(7,811億円)・営業利益(869億円)を達成

<主要因>

- ◆NIPSEA中国は、消費者センチメントの改善に伴い2Qより増収達成
- ◆Betek Boya社は、1Qからの好調な市況や拡販策が奏功し増収
- ◆DuluxGroup社は、既存住宅の塗り替え需要が通年で継続し増収
- ◆日本は、コロナ影響からの回復の遅れや人件費等の増加で減収 減益

2020年通期 <u>計画比(11月)</u>

(短信ベース) 売上収益+2.8% 営業利益+14.4%

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

<主要因>

- ↑国内外における自動車生産台数の回復
- ↑NIPSEA中国は、新築不動産市場の拡大が継続し需要増加
- ↑ Betek Boya社は、販促活動やインセンティブにより想定以上の売上伸長
- ◆計画通り、各社広告宣伝費等の販管費を増大するも、売上・ 利益ともに前回予想より上振れ

※DuluxGroup社は売上収益1,483億円、営業利益161億円、Betek Boya社は売上収益362億円、営業利益49億円

3

まずは 2020 年度通期のサマリーです。

短信ベースでは前年対比で増収増益を達成するだけでなく、売上収益、営業利益ともに過去最高となりました。 通年で見れば中国が結局大きく持ち直したこと、2019年に買収した DuluxGroup 社、Betek Boya 社の 2 社がそれぞれ好調で、かつ通年寄与したことなどが大きな要因と考えています。

2020 年 11 月にご提示した通期ガイダンスである売上収益 7,600 億円、営業利益 760 億円を大幅に上回っていることに関しては、自動車需要の回復、中国や Betek Boya 社などが想定以上に伸びたことに加えて、第 4 四半期に予定していた営業プロモーション費用や 2021 年向けの投資などを相応に実施したものの、それ以上に利益の伸びが上回りました。



【1-1、本日のサマリー(2)2020年第4四半期

2020年4Q YoY成長率



(短信ベース) 売上収益+11.2% 営業利益+102.0%

(実質ベース) 売上収益+13.6% 営業利益-5.4% ◆NIPSEA中国事業は+22.7%増収、+13.1%増益を達成

- (1) Projectは新規等不動産開発の回復継続及び戦略的顧客内でのシェア向上により+34%増収
- (2) DIYも需要回復が進み+21%増収
- ◆自動車用は、国内外の生産台数の回復が前年並みまで回復し、 事業全体としても増収に転じる
- ◆Betek Boya社は販促活動やインセンティブによる売上伸長、 DuluxGroup社もコロナ影響による既存住宅の塗り替え需要の 継続により、ともに着実に業績貢献
- ◆両社買収から1年以上が経過し、4Q以降実質ベースにフル寄与
- ◆日本は、コロナ再拡大に伴う減収影響や人件費・広告宣伝費の 増加で減益
- ◆足元で徐々に原材料価格の上昇が見られるも、前年対比で は原材料の調達価格の低減が利益に貢献

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

続いて、2020年度第4四半期の状況についてご説明いたします。

第4四半期は短信ベース、実質ベースいずれも DuluxGroup 社、Betek Boya 社は含まれているものの、利益面では短信ベースで前年同期に欧州・インドで減損をそれぞれ計上したことから、その反動で大幅に伸びました。そうした効果を除くと想定通り減益となりましたが、その幅は-5.4%にとどまっています。実質ベースの方がより増収になっているのは、為替コンスタントとしているからであり、短信ベースとの差は基本的に為替要因です。

そうした中、NIPSEA 中国の建築用では Project が+34%の増収, DIY が+21%の増収と、引き続き順調な成長を遂げているのは、特筆すべきポイントです。

2020 年 11 月の第 3 四半期決算時に、当社の見通しが保守的である可能性については私自身が言及しており、結果的には実際保守的であったということになります。ただし、世界の状況は非常に流動的かつ不確実であり、コロナ影響の状況を含めて、常に予断を許さない認識を引き続き持っていますので、ご理解ください。



5

【1-1. 本日のサマリー(3)2021年通期予想

2021年 連結業績予想

(短信ベース)

売上収益 8,900億円 営業利益^{※1} 920億円 営業利益^{※2} 870億円 当期利益 670億円



2021年 EPS予想 29.17m ______

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

◆2021年はグローバル各地域・事業における順調な成長やアジアル 持分取り込み・新規連結効果により前年比で、売上収益、営業利益 とも過去最高を予想

(赤上)

- ◆既存ビジネスの連結売上収益は対前年比約7%成長を見込む
- ◆引き続き中国を中心にアジア地域での高い成長に加え、グローバルな自動車市場の回復、日本建築市場の回復、欧州Betek Boya社の成長も想定。DuluxGroup社は、前年特需の反動も安定成長し、マージンの上昇を見込む

(費用)

- ◆原材料費率は、現在の市況に鑑み前年対比で若干上昇見込み
- ◆中長期で持続的成長を図るため、日本国内で積極投資を推進
- ◆なお、印紙税等のアジア一体化に伴う費用を中心に約50億円の 一過性費用を想定

◆EPS (分割後) は29.17円を予想

◆年間配当金 (分割後) は10円 (記念配当1円を含む) を予想 ※分割考慮前は普通配当45円、記念配当5円

※1 アジアJV等の一過性費用を除く ※2 アジアJV等の一過性費用を含む

2021年度通期予想についてご説明いたします。

先程申し上げた通り、引き続き地域によってさまざまな状況が混在している中、全般には新規連結前でも 約+7%成長と順調な回復・成長を見込んでおり、これに新規連結するインドネシア、インドを加えて、売上収益 8,900 億円、営業利益 870 億円と、いずれも過去最高を更新する予想です。営業利益は、アジア一体化に伴 う印紙税、PPA(Purchase Price Allocation)に伴う在庫のステップアップなどの一時費用を約 50 億円見込 んでおり、それを組み戻した営業利益は 920 億円となります。

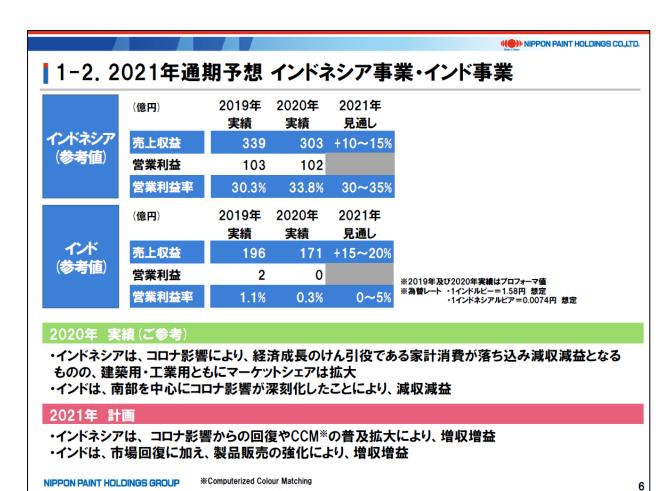
なお、アジア合弁事業 100%化ならびにインドネシア事業の買収は、ご案内の通り、2021 年 1 月 25 日に買収を完了しています。監査法人と協議の上、連結上は 1 月 1 日からの見なし連結としており、本ページ以降もすべてその前提に立っている点にご留意ください。

個別地域については後ほどご説明いたしますが、全体に原材料費は昨今の市況に鑑み、上昇することを見込んでいます。また、2020年2月21日の機関投資家様向け説明会でもお伝えしました通り、日本国内の持続的成長を図るため、積極的な投資を開始していきますので、短期的には利益圧迫要因となる見込みです。

なお、当社株式の分割を本日決議し、2021 年 3 月 31 日を基準日として、1 株につき 5 株の割合をもって分割いたします。背景としては、株式分割により、当社株式の投資単位当たりの金額を引き下げることで、投資家の皆様や当社グループ社員等が投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大と市場流動性の向上を目的としています。

なお、これにより、分割後の EPS は、29.17 円を想定しています。

また、当社は 2021 年 3 月に創業 140 周年を迎えます。業績も順調に推移していますので、記念配当を実施いたします。この結果、分割後の年間配当額は 10 円となり、このうち上期の普通配当が 4 円、記念配当が 1 円、下期の配当は 5 円とさせていただく予定です。



このページでは、新規連結対象となるインドネシアとインド事業の概要、ガイダンスを別枠でご説明いたします。いずれの数字も参考値としてご理解ください。なお、インドは従前より 50%保有し、持分法適用会社としていたため、売上収益、営業利益が新規連結対象となります。

インドネシアは、2019 年に大統領選挙の影響を受けた点は 2020 年 8 月 21 日の説明会でもお伝えしましたが、残念ながら 2020 年のコロナ影響は想定以上に大きく、建築用・工業用ともに減収となりました。ただし、そうした中でも当社の市場シェアは着実に拡大していると考えており、2021 年は 2 桁の増収、高い利益率を確保できると予想しています。

インドについても、2020 年はコロナ影響で減収減益となりましたが、2021 年は市況の回復に加えて、製品販売の強化によって増収増益を予想しています。

いずれも、2020年実績は参考値である点にご留意ください。

P7-8 は割愛し、最近のトピックスについて、改めて時系列順でご説明いたします。

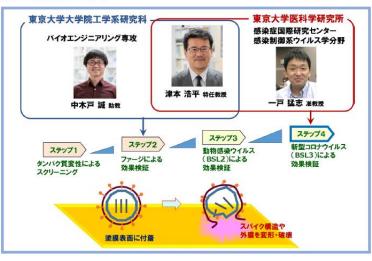


【1-4. 第3四半期決算発表からの主なトピックス①

■ 産学協創による感染症リスク低減に向けた取り組みが本格化(11月24日発表)

- ・ガーナ大学医学部附属野口記念医学研究所との共同実験にて、可視光応答形光触媒を 採用した水性塗料塗膜表面における新型コロナウイルス不活化効果を確認
- ・東京大学との実環境を想定した新型コロナウイルス(含:変異株)に対する効果検証を開始
- ・抗ウイルス機能を可視化する新技術の開発に着手





NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

9

現在の社会課題である「新型コロナウイルス」対策に関する取り組みです。

2020 年 10 月より、東京大学において、「革新的コーティング技術の創生」という名称の社会連携講座を開設し、「感染症リスク低減」「スマート社会」「環境負荷低減・社会コスト抑制」の 3 つのテーマによる共同研究を進めてきました。

10月には並行して、ガーナ大学医学部附属野口記念医学研究所との共同研究において、可視光応答形光触 媒を採用した水性塗料の塗膜表面において、実験環境下での新型コロナウイルスの不活化効果を確認しました。 11月には東京大学が実環境を想定した新型コロナウイルスに対する効果検証を開始し、変異種も含めた検証が 順調に進んでいます。



1-4. 第3四半期決算発表からの主なトピックス②

【「PROTECTONインテリアウォールVK-200 DIY用」の販売開始(12月18日発表)

- ・可視光応答形光触媒採用の室内用抗ウイルス・抗菌水性塗料として、作業性及び塗りや すさを更に向上するとともに、一般家庭向けの容量と低価格を実現
- ・9月4日発売「PROTECTONインテリアペイントプレミアム」に続く抗ウイルスDIY塗料の第2弾
- ・業務用「PROTECTONインテリアウォールVK-200」は10月28日から発売







ニッペホームオンライン https://www.nippehome-online.jp/

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

10

2020年9月には抗ウイルス・抗菌製品に特化した新しいブランド「PROTECTON」を立ち上げました。DIY・家 庭用の製品2種と業務用の2種を順次発売し、大変大きな反響をいただいています。

2021 年も、「PROTECTON」ブランドのもと、多数の抗ウイルス・抗菌の新製品を上市する計画です。



1-4. 第3四半期決算発表からの主なトピックス③

| 自動車用塗料事業の米州再編完了(1月18日発表)

- ・日本ペイント・オートモーティブコーティングス株式会社 (NPAC) の米州自動車用事業の再編を 2021年1月1日付で完了
- ・欧州自動車用事業は、2021年7月初旬より新体制での運用を開始予定
- ・グローバルに品質保証体制の大幅な強化を図る
- ・欧州、米州自動車用事業の再編を通じて、より一層お客様のニーズに沿った商品、サービスをワンストップで提供し、自動車用事業でのリーディングカンパニーとなることを目指す



2020年10月に発表しました自動車用事業のグローバル再編は順調に進んでいます。

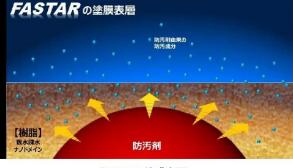
国内への投資を含めて、自動車用事業をさらに強化し、お客様への迅速な製品・サービスのご提供をワンストップで 実現できる体制を整えるとともに、グローバルに品質保証体制を大幅に強化していきます。



11-4. 第3四半期決算発表からの主なトピックス④

- 日本ペイントマリン株式会社 業界初のナノ技術を駆使した次世代型加水分解船底 防汚塗料「FASTAR」を1月より発売(1月22日発表)
- ・防汚剤の溶出量を従来型と比較して最大50%超削減。海洋環境にやさしい製品
- ・独自の「ウォータートラップ技術」により船舶の燃費を約8%低減。排出CO2とコスト削減に貢献
- ・塗装工程工数を最大37%削減。改修期間の短縮に貢献
- ・全世界のお客様のESG経営を支えていく製品





FASTAR施工事例

FASTARの塗膜表層

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

12

ESG の観点から地球環境に優しい製品開発も加速しています。

日本ペイントマリンでは、1月に環境に優しい船底用防汚塗料「FASTAR」を新発売しました。業界初のナノ技術による防汚剤溶出量の大幅削減が環境負荷の低減につながり、省燃費仕様による排出 CO_2 削減など、お客様の ESG 経営にも貢献することができると考えています。



アジア合弁事業 100%化およびインドネシア事業の買収は、先ほどもお伝えした通り、1月25日でクロージングしています。



【1-4. 第3四半期決算発表からの主なトピックス⑥

- R&Iの当社発行体格付が「A-」から「A」に引き上げ(2月4日発表)
 - ・塗料事業でアジアトップにある当社グループの信用力を反映
 - ・Betek Boya社やDuluxGroup社の買収効果もあり、コロナ禍でも全体の収益は堅調に推移
 - ・アジア合弁事業100%化並びにインドネシア事業の買収などを通じて、財務基盤を拡充させつつ大型の戦略投資を実現していることから、「A」への評価引き上げへつながった



2021年2月4日 開示資料

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

14

2月4日には、格付投資情報センター(R&I)による格付けが、「A-」から「A」へ引き上げとなりました。

財務健全性を損なわずにアジア合弁事業 100%化、インドネシア事業の買収を実施したことに加え、当社業績がコロナ禍でも堅調であったことを評価いただき、引き上げにつながったと理解しています。



1-4. 第3四半期決算発表からの主なトピックス⑦

- ■株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更に関するお知らせ(2月10日発表)
 - ・投資単位当たりの金額を引き下げ、投資家の皆様や当社グループ社員等に投資しやすい 環境を整えることで、投資家層の拡大と市場流動性を向上
 - ・2021年3月31日を基準日として、1株につき5株の割合で分割
 - ・2020年12月期の期末配当金は、1株当たり23円00銭での配当予定に変更なし



2021年2月10日 開示資料

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

15

P15 は、先ほども申し上げた株式分割のご説明になります。

2020 年度第3四半期決算でも申し上げましたが、短期間のうちにさまざまなトピックスをご提供しており、引き続きこの経営のスピード感は失うことなく、皆様とも対話を深めていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

この先は質疑応答でご説明するとして、P21 をご覧ください。

【3-2. 中国塗料市場の成長機会拡大(シェア見直し)





Project・DIY市場の変化

- ・中国塗料市場は、これまで主に新築住宅で構成されていたが、新たに中古住宅の改装需要が急激 に拡大
- ・これまで対象外であった上記改装需要を加味すると、Project市場は飛躍的に大規模となり、DIY 市場も大きく拡大
- ・当社としては、市場変化に柔軟に適応し、新たな市場でもマーケットシェア拡大に注力
- ・上記背景から、従来定義に基づくマーケットシェアを見直す必要があり、昨年開示したDIY市場シェア36%、Project市場シェア17%の数字は取り下げ、当面定性的な開示を予定

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP 21

当社はこれまで中国事業のシェアをお伝えする際、市場規模を図るために主に新築住宅市場を見てきましたが、中 古住宅の改装需要が急激に拡大しており、合算すると Project 市場は飛躍的に大きくなります。

当社はこうした市場の変化に柔軟に適応し、中古住宅市場も含めたシェア拡大を積極的に行っていきたいと考えています。また、DIY 市場も含めて全体的に市場はもっと大きく捉えられるであろうと考えており、その結果、従来申し上げてきた数字が当社の狙う市場と一致しないことから、市場シェアの数字はいったん取り下げたいと考えています。

これはある意味では、今後シェアが拡大する余地がさらに広がったとも考えられますし、当社の総合力を背景として、 戦略的には変わらずシェア拡大にまい進していきたいと考えています。



4-1, 2021年通期 業績予想

(億円)	短信ベース			
(pg. J)	2020年 実績	2021年 予想	YoY (%)	YoY (額)
売上収益	7,811	8,900	13.9%	1,089
営業利益 (アジアJV等費用考慮前)	869	920	5.8%	51
営業利益率 (アジアJV等費用考慮前)	11.1%	10.3%		-0.8pt
アジアJV等費用	-	-50	5 —	-
営業利益	869	870	0.1%	1
営業利益率	11.1%	9.8%		-1.4pt
当期利益 [※]	446	670	50.1%	224

概要

・グローバル各地域・事業における順調な成長や新規連結効果により売上収益、 営業利益とも過去最高を予想

<連結P/L 為替換算レート> ※期中平均レート	2020年 通期	2021年 通期
円/米ドル	106.4	105.0
円/人民元	15.4	15.7
円/豪ドル	73.7	75.0

※親会社の所有者に帰属する当期利益

売上収益

- ・既存ビジネスの連結売上収益は対前年比約7%成長を見込む
- ・引き続き中国を中心にアジア地域での高い成長に加え、グローバルな自動車市場の回復、日本建築 用市場の回復、欧州Betek Boya社の成長も想定

費用

- ・原材料費率は、現在の市況に鑑み、前年対比で若干上昇を見込む
- ・中長期で持続的成長を図るため、特に日本国内では積極投資を推進。具体的には①DXの推進、 ②人材・監査機能の強化、③R&Dの強化、④抗ウイルスプラント拡販に向けたマーケティング等を予定
- ・なお、印紙税等のアジア一体化に伴う費用を中心に約50億円の一過性費用を想定

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

30

最後に P30 以降で 2021 年度通期の業績見通しについてご説明いたします。

P30 の数値は冒頭で申し上げた通りです。

費用に関しては、原材料費が前年対比で若干上回る見込みです。

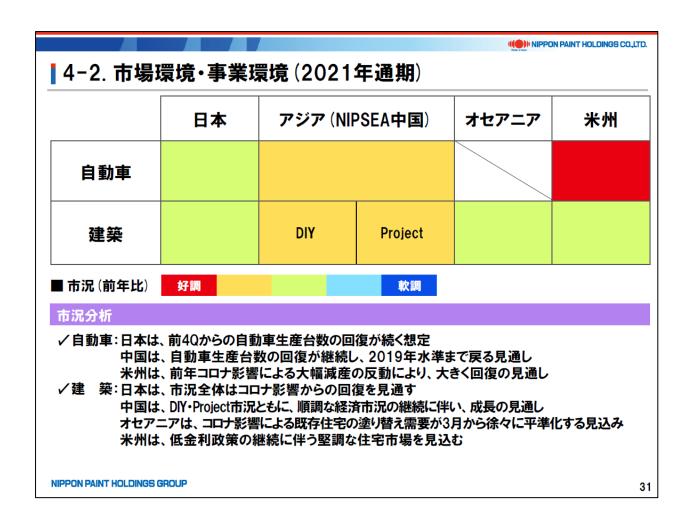
また、中長期で持続的成長を図るため、特に日本国内では積極的に投資を推進する計画です。

昨年より申し上げている通り、いわゆる工場の再編や自動化、物流の効率化などがある意味で待ったなしの状況であると考えており、まさに今年から実行に移していく予定です。

期間の考え方は、3年と言わず、長期的展望を持っています。当面見えているところでは7年程度であり、この時間軸の中でさまざまな設備投資などを考えていきます。また、7年のスパンと固定化して考えるのではなく、3年程度のスパンで見直しながら、最適な体制を構築していきたいと考えています。

なお、この資料には入れていませんが、グローバルでの設備投資は、約440億程度を見込んでいます。

この金額は P53 にある 2020 年度の実績見込みの 389 億と比べても増やしています。ただし、設備投資が即、 償却で費用に回るわけではなく、時間をかけて償却をしていきます。その間にも売上は伸ばしていきますので、この部 分が費用としてものすごくかかっていくわけではないと考えています。



次に、2021年度の市況の見通しについてご説明いたします。

引き続き予断を許しませんが、コロナ影響のあった 2020 年度との比較では、全般にフラットからプラスを予想しながら、さらにシェアを獲得していく考えです。



32

【4-3. 2021年通期 見通しの諸前提(1)

日本

		2021年見通し	定性情報
5	5上収益	+5%前後	
	自動車	±0%	自動車市況の回復継続は想定するも、コロナ影響の不透明さも織り込み、業 績は前年並みを想定
	汎用	+10%前後	DIY事業の巣ごもり需要は平準化するが、市況全体は回復し増収を想定。 マーケティングプロモーションや新規機能製品・高収益製品の開発拡充に注力
	工業用	+15%前後	コイル事業は20以降、農機・建機等の各事業は10以降、市況回復を想定。粉体塗料事業での拡大推進によるシェア向上もあり、増収を見込む

NIPSEA中国

		2021年見通し	定性情報
売	上収益	+10%前後	
	汎用 (DIY)	+10%前後	持続的な市場成長見通しのもと、高付加価値製品の供給や販売チャネルの 拡充、ブランドの強化等により、増収を見込む
	汎用 (PRJ)	+20%前後	順調な経済市況により、旺盛な建設需要は継続すると見込んでおり、引き続き 戦略的顧客への注力や顧客内でのシェア向上、製品の拡充により、着実な成 長を見込む
	自動車	+5~10%	自動車生産台数の回復により、増収を予想

※数値は現地通貨ベース

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

それが P32 以降でお示しした数字であり、例えば中国汎用の Project は+20%前後の増収、DIY でも+10% 前後の増収をそれぞれ予想しています。



33

【4-3. 2021年通期 見通しの諸前提(2)

【アジア(NIPSEA中国以外)

	2021年見通し	定性情報
アジア (NIPSEA 中国以外)		自動車用は、高品質塗料や技術サポートの充実により、顧客との関係を強化。 市況は緩やかな回復を想定。建築用は、市況回復を見込み、抗ウイルス製品や Selleys製品の拡充、Project事業を強化し、増収を見込む

(内訳)	ご参考	コロナ影響からの回復に加え、CCMや販売網の拡大により、増収増益
インドネシア	+10~15%	(参考値) 2020年度 売上収益303億円、営業利益102億円
(内訳)	ご参考	市場回復に加え、製品販売の強化により、大幅な増収増益
インド	+15~20%	(参考値) 2020年度 売上収益171億円、営業利益0億円

オセアニア

売上収益	+0~5%	前年特需の反動も安定成長し、マージンの上昇を見込む
------	-------	---------------------------

※数値は現地通貨ベース

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

オセアニアについては、2020年のコロナ影響による既存住宅の塗り替え需要の反動により、2019年からの2年で見ると平準化されるため、2021年の売上成長率は低下しますが、一方で2020年の後半からさまざまな投資を行ってきており、それらが実を結ぶことでマージンの上昇を見込んでいます。



【4-3. 2021年通期 見通しの諸前提(3)

▮米州

		2021年見通し	定性情報
5	上収益	+5%前後	
	自動車	+5~10%	前年のコロナ影響による大幅減産の反動により、大きく回復する見通しであり、 当社業績も増収の見込み
	汎用	+ 5 % DILAN	20年度から続く政府低金利政策による堅調な住宅需要見通しに加え、DXの 推進や店舗網の充実などにより、増収の見通し

その他

自動車	+30%前後	米州同様、コロナからの反動により、大幅な増収の見込み
Betek Boy	+10%前後	経済の回復継続に加え、政府の刺激策等により、引き続き市場は成長する見通し。 業績予想は、ブランドや製品ラインナップを拡充し、増収を見込む

▋原材料費

原材料費

原材料価格は昨年に比べ全地域で上昇傾向。昨今の原油・ナフサ価格の上昇に対して、 生産性の向上や購買政策の強化など原価抑制への取り組みでの吸収を目指す

※数値は現地通貨ベース

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

34

Betek Boya 社は、トルコリラ安の影響で 2021 年は輸入物価が上昇するため、需要にも影響が出ると見通していますが、現地通貨ベースでは+10%前後の増収を予想しています。

また自動車用全般においては、2020年は自動車工場での生産が一時ストップするなどもあり、それと比較すると大きく回復すると見込んでいます。

最後に、2021 年度からの中期経営計画についてですが、3月5日(金曜日)15時30分から、当社社長の田中正明から皆様にご説明させていただく予定です。オンライン開催を想定していますが、こちらもご参集たまわりますよう、よろしくお願いいたします。

以上となります。ご清聴ありがとうございました。